

【6年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国 語	<p>〈読解について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学的な文章において、人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることは、概ねできている。 ○説明的な文章においては、主述の関係や指示語の読み取り、語彙等に課題があることから、叙述を基に筆者の考えを捉えたり要旨を把握したりすることが十分にできていない。 ○説明的文章において、文章全体の構成を捉える能力の差が大きい。 <p>〈書くことについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとまった量の文章を書くことへの苦手意識がある。 ○「はじめ・中・終わり」の簡単な構成の文章を書くことは概ねできているが、「中」の部分の内容を膨らませたり、自分の考えを適切に表現したりすることが十分にできていない。 ○書いた文章を読み返す習慣が十分に身に付いていない。 	<p>1 読解について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読み解く力」の育成、特に「イメージ同定」（文と非言語情報〔図〕を正しく対応づける）と、「照応解決」（代名詞が何を指しているか正しく認識する）、推論（既習事項を根拠として、新しい知識を獲得させる）を意識的・重点的に指導する。 ○読解の場面で、主述関係の把握や指示語の確認・整理を意識して行っていく。また、意味が曖昧だったり分からなかったりする言葉をそのままにせず、国語辞典を活用して調べ、文章の中の言葉の意味を正しく捉えられるようにする。 ○読書週間を設定し、読書に親しむ機会を増やす。「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させていく。ジャンルに分けた必読書リストを配布する。また、成増図書館と連携して全学年でブックトークを実施し、読書の楽しさに目を向けさせる。このような取り組みを通して、多くの児童の読書量や語彙量を増やせるようにする。 <p>2 書くことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事後に作文を書くなど、機会を捉えて計画的、継続的に文章を書くことに取り組めるようにする。 ○読書の取り組みや、辞書、言葉の宝箱などを活用を通して、一人一人の語彙を増やしていく。 ○主述の呼応、誤字、脱字等の表記の仕方といった表記上の観点を明確にして、書いた文章を読み返し修正するという習慣作りをする。

	<p>〈漢字について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の書き取り、漢字と熟語の組み合わせの力が定着していない。 ○学習した直後には漢字を書けるが、繰り返し練習をしていかないと忘れてしまう傾向にある。 	<p>3 漢字について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字は、授業の中や宿題等で繰り返し学習する。新出漢字を学習するだけでなく、読み替えの漢字を学習する時に、今まで習った読み方を確認する。特に読み方の多い漢字や間違えやすい漢字は、折に触れ確認するようにする。部首についても、新出漢字の学習の中で、時々確認し、意識させるようにする。 ○国語に限らずいろいろな場面で、漢字を正しく使う指導をしていく。
<p>社 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の歴史に対して、興味や関心の個人差が大きい。 ○年表などの資料と出来事を関連させて、総合的に読み取ることが充分でない。 ○時代と、出来事や人物を結び付けて考えることに課題がある。 ○歴史上の人物や出来事としての知識はあるが、時代の流れを意識できていない。 ○社会で起きている事象や、政治に関心がない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物を提示したり、ICT 機器や視聴覚教材を積極的に活用したりして、児童が歴史的事象や時代背景を想像しやすいように工夫する。 ○資料の読み取りを丁寧に指導するとともに、その資料から時代背景を考えさせる機会を多く設ける。 ○資料集や視聴覚教材、学習シートなどを効果的に利用し、年表でそれぞれの出来事を関連付けながら、内容を理解させる。 ○まとめの学習として、時代別歴史新聞作りに取り組み、歴史上の出来事や人物についての理解定着を図り、時代の流れを意識させる。 ○日頃から世の中の出来事に関心をもちニュースや新聞を見聞きするよう指導する。
<p>算 数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」基本的な四則計算はできている児童が多い。小数のわり算は除数が小数の場合やあまりがある場合は計算の仕方につまずく児童が多い。 ○「図形」面積や体積は公式を理解して得活用することはできている。円や角柱、円柱などで複雑な図形になると混乱する児童がいる。 ○「測定・変化と関係」割合や速さに関する問題に苦手意識を感じている児童が多い。また、基本的なところを理解できていない児童もいる。 ○「データの活用」代表値は理解できているが、活用するのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の意味を理解し、小数点の移動等基本的なことをおさえて習熟練習を行い、正しく解くことができるようにする。 ○公式を使って答えを求めただけではなく、図形を構成する要素に着目しながら求められるようにする。複合図形も既習の面積や体積に結び付けて考えさせる。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目させるために、数直線を書いて関係を確認させる。比例の関係から立式をして未知数(答え)を求められるようにさせる。 ○様々な代表値を日常生活の中で使うことができるようにする。

理 科	<p>○見通しをもって実験、観察をする力が付いてきたが、結果と考察の違いがはっきりと理解できず、より妥当な考えをつくり出す力がまだ十分に身に付いていない。</p> <p>○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない児童が存在する。</p> <p>○理科の実験や観察などには興味をもって取り組んでいる。</p>	<p>○結果（事実）と結論（考え）を区別した文型を示し、考察の基本的な書き方を指導する。また、既習事項をもとに仮説を立てたり、いくつかの結果をもとに結論を導き出したりする際の話し合いを丁寧に指導し、推論する力を養う。</p> <p>○実験前に、道具の使い方や安全指導を確実にを行う。危険度の高い活動では、必ず演示を行う。</p> <p>○興味や関心をさらに刺激するような体験や活動から問題づくりを行い、実験や考察など体験的な方法を多く取り入れることで、実感ある理解を導く。</p>
音 楽	<p>○難しい課題でも、最後まで努力を惜しまず完成に向けて努力している。</p> <p>○思い切り声を出したり、音を出したりできない児童が見られる。</p> <p>○友達と意見を出し合い、認め合って、自分たちの音楽を創りあげる活動に意欲的に取り組めるようになってきた。</p>	<p>○その都度頑張った点を褒めたり、更に意欲的に表現を高められるよう声掛けをしたりしていく。</p> <p>○スモールステップで課題に取り組めるよう、個の技能に応じた楽譜を用意するなどし、意欲を引き出せるよう指導を工夫する。</p> <p>○今後も、題材・教材に応じて、様々な形態の活動を適宜取り入れ、協働して学びを深められるようにする。</p>
図 工	<p>○自分の思いを表現したい気持ちが強くなり、表現活動では材料や方法を自分なりに工夫する児童が多くなってきている。</p> <p>○発想面において、他者からどう思われるかを気にする傾向が出てきている。</p> <p>○自分の思いを発表するなど、言葉にすることに課題のある児童がいる。</p>	<p>○材料や用具、技法を、数ある中から自分で選び、活用していく授業を設定し、自己表現・自己実現する経験を積むことができるようにする。</p> <p>○表現は自由であることを伝えるだけではなく、実際に児童が表現しようとしている姿、表現した作品を評価する。また、自他の表現を互いに認め合う雰囲気大切にしていく。</p> <p>○発表するために言葉を書いて準備ができるように、まとめを記述方式に変え、自信をもって発言できる環境を整えていく。</p>
体 育	<p>○運動の種類により、児童の技能に個人差がある。</p> <p>○運動経験が不足していると思われる児童が多い。</p>	<p>○苦手な児童にも楽しさを味わわせるよう、見本を見せたり的確なアドバイスをしたりして工夫する。教え合いの授業を充実させる。</p> <p>○誰もが楽しめるような運動の行い方やルールを工夫するとともに、授業中の運動量を確保する。</p> <p>○休み時間の外遊びを推奨する。</p>

家庭科	<p>○調理や制作など実践的・体験的な学習だけでなく、家庭生活や住まいにも興味・関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○制作の技能に関して、個人差があり、高い技能をもち一人で取り組める児童と支援を必要とする児童がいる。</p> <p>○生活に目を向けることができても、自分の考えを深めて、活動・実践していくことに結びつかない。</p>	<p>○生活に必要な基礎的知識と技能を確実に身に付けさせるために、実践的・体験的な学習を多く取り入れる。また、調理や制作以外の内容にも興味をもって取り組めるようにしていく。</p> <p>○ICTを活用しながら、知識と技能の習得を図る。教材教具を工夫し、児童にとって分かりやすい授業を目指していく。また、個に応じた指導を行い、技能を高めていく。</p> <p>○児童が家族の一員であり、生活者であると自覚できるよう、家族の中での自分の仕事を意識させ、毎日の生活を考えながら行動できるようにさせる。また、振り返る機会を設ける。</p>
道徳	<p>○相手の気持ちを考えられても、行動に移せる児童が少ない。</p> <p>○自分の考えをノートになかなか表現できない児童がいる。</p>	<p>○身近な事を取り上げ、自分と相手の関わりを実感できるような授業展開をする。</p> <p>○友達の意見を参考にして、自分の意見を広げられるよう指導する。</p>
総合的な学習の時間	<p>○収集した資料の中から必要な資料を選択できなかつたり、引用した文をそのまま載せ、自分の考えを加えることができなかつたりする児童が多くいる。</p> <p>○課題解決能力の向上を図ることが課題である。</p>	<p>○各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、取捨選択の仕方を学ばせる機会を多く設ける。</p> <p>○課題を明確にさせ、その解決のためにはどうしたらいいのか見通しをもたせる指導を繰り返し行う。</p>
外国語	<p>○外国語活動自体には興味・関心があり、意欲的に取り組むことができる児童が多いが、人前で英語を話すことには消極的な児童も見られる。</p> <p>○ゲーム的な活動には、積極的に参加できる児童が多い。やり方やルールを理解するのに時間を要する児童もいるが、繰り返すことによって理解できる。</p> <p>○フレーズが長くなってくると、聞き取れない児童もいる。その場合、活動への意欲が低下する傾向が見られる。</p> <p>○書くことが苦手な児童がいる。</p>	<p>○授業の中で、英語に触れる機会を多く設けるようにする。指示についても、なるべく英語を多く使用するようにする。</p> <p>○絵カード等の教材を使用することで、単語が指し示す事物が理解できるようにする。</p> <p>○授業の展開をある程度決めておき、見通しをもって活動に取り組むようにする。</p> <p>○長いフレーズの場合はゆっくり読んだり、短く区切って読んだりするなどの工夫をする。</p> <p>○ALTが入る授業では、事前に内容を把握し、支援が必要と思われる活動や支援の方法等をあらかじめ想定しておく。</p> <p>○書く機会を増やし、慣れさせる。</p>